

# I 戦略プロジェクトについて

## 1 戦略プロジェクトとは何か

平成27年度からスタートした総合計画の基本目標\*<sup>1</sup>を達成するため、各分野の29施策\*<sup>2</sup>において、それぞれ取組を推進していく一方で、未来に向け、特に重点的・施策横断的に取り組む必要のある課題に対応するため、施策単位での取組を連携させながら事業実施の効果を高め、課題を解決し、基本目標の達成や将来像の実現を目指していく必要があります。

このことから、本市の課題等を踏まえた、重点的・施策横断的な取組を「戦略プロジェクト」として展開します。

取組期間は、おおむね3年を目途に重点を置いた取組を進めます。

### \*<sup>1</sup> 基本目標

総合計画の基本構想に掲げている「目指す将来像」の実現のため、まちづくりの理念や方向性を表したもの

### \*<sup>2</sup> 施策

目指す将来像の実現に向けて取り組む課題を明確にするために、4つの基本目標の下に位置付けたもの。施策毎に目標値を設定するなどして達成度の評価を行います。

## 2 平成29年度戦略プロジェクト

### ◎ 子育て応援プロジェクト

若い世代や子育て世代が、希望を持って子どもを産み育てることができ、盛岡に住みたい、住み続けたいと思えるよう、さまざまな保育ニーズに柔軟に対応するための支援を行うなど、子育て環境を充実します。

また、子どもの健やかな成長の支援や育児不安の解消を通じて子育て世代を応援し、子育てにやさしいまち盛岡を実現します。

◎ きらり盛岡おでんせプロジェクト

歴史，自然，文化，先人，まち並みをはじめとする，本市の恵まれた観光資源を生かし，盛岡の魅力に触れ，満足してもらうため，新たな観光資源の開発や掘り起こし，ブラッシュアップを推進します。

また，北陸，北海道新幹線の開業をチャンスと捉え，盛岡のきらり光る魅力を発信し，更なる交流人口の増加と盛岡ファンづくりを推進します。

◎ 「食と農」・「ものづくり」応援プロジェクト

本市の魅力ある農畜産物などの地域資源を活用した取組を進めるとともに，関連する食品関連産業やものづくり関連産業の高付加価値化や操業環境整備の取組により産業の振興を図ります。

また，戦略的な企業誘致や企業支援のほか，新たな市場開拓や新商品開発等を目的とした異業種交流の促進により，活力あふれるまちづくりを推進します。

## Ⅱ 戦略プロジェクト評価について

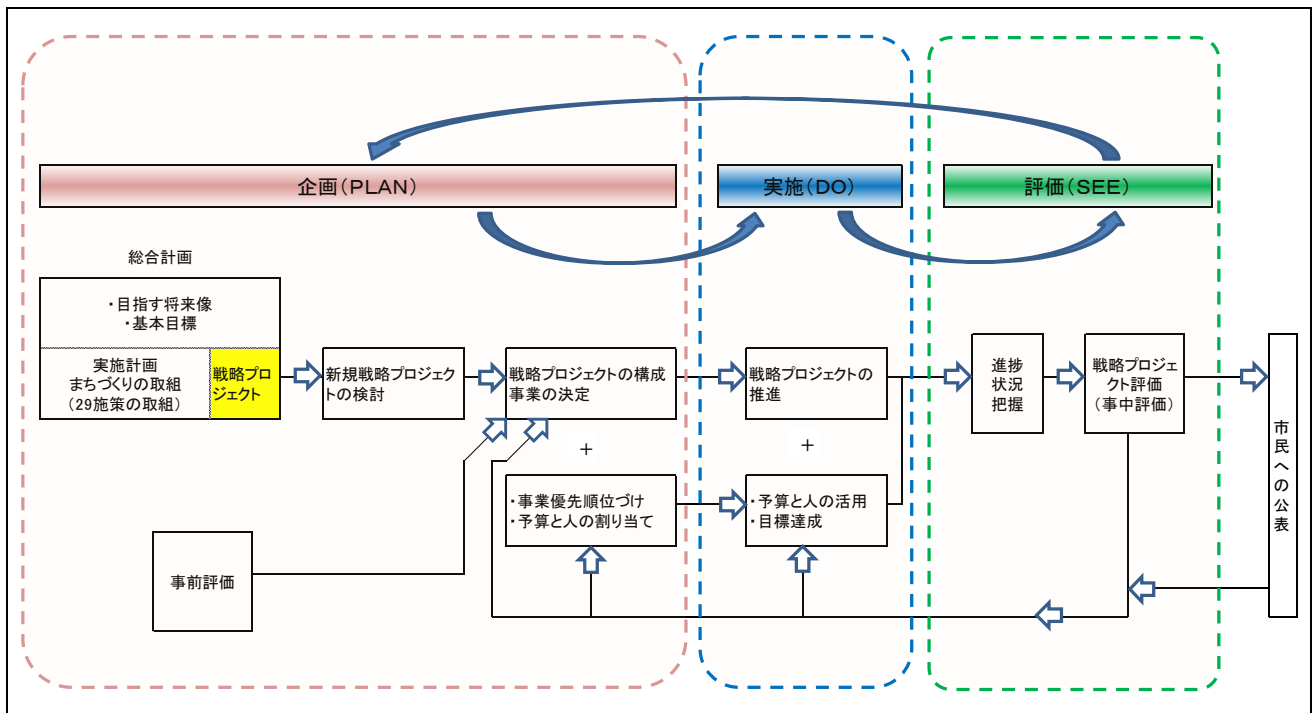
### 1 戦略プロジェクト評価は何のために行うのか

戦略プロジェクト評価は，各戦略プロジェクトの目的や目標がどこまで達成されたか等の視点により評価するものです。

また，戦略プロジェクトは，設定した取組期間内において目標を達成することが求められていることから，前年度の実績を踏まえながら当該年度の評価時点における進捗状況評価（事中評価）を実施することで，戦略プロジェクトの着実な推進を図ります。

## 2 どのような仕組みか

企画（PLAN）→実施（DO）→評価（SEE）の循環（マネジメントサイクル）を活用し、戦略プロジェクトの取組について振り返りを行うことにより、次年度以降の企画の立案や予算編成に反映させていく仕組みです。



## 3 評価結果を何に反映させるのか

戦略プロジェクト評価の評価結果は、今後の戦略プロジェクトの推進や構成事業の見直しに活用するとともに、戦略プロジェクトの期待する効果や意図実現に向けて特に高い効果が得られる事業に対し、重点的に予算を配分するなど、予算編成に活用することとしています。

# 戦略プロジェクト評価シート (H29 事中評価)

戦略プロジェクト名	子育て応援プロジェクト		
主管部等名	子ども未来部	部コード	17
戦略プロジェクト統括マネージャー	子ども未来部長 志賀 達哉	内線番号	691-6400

戦略プロジェクトの中心事業を所管する部等の長を、「戦略プロジェクト統括マネージャー」としています。

## Step 1 戦略プロジェクトの全体像

### 1 戦略プロジェクトの概要等（構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり）

戦略プロジェクトへの設定理由	生産年齢人口の減少が進む中、活力ある社会を築いていくため、若い世代にとって暮らしやすい、また女性にとって社会進出や子育てがしやすいなど、若い世代や女性が住み続けたいまちをつくるのが本市の重要課題となっている。
戦略プロジェクトの取組内容	若い世代や子育て世代が、希望を持って子どもを産み育てることができ、盛岡に住みたい、住み続けたいと思えるよう、さまざまな保育ニーズに柔軟に対応するための支援を行うなど、子育て環境を充実させる。 また、子どもの健やかな成長の支援や育児不安の解消を通じて子育て世代を応援し、子育てにやさしいまち盛岡を実現する。
重点取組期間	平成27年度～平成29年度
期待する効果	みんな子育てを支えるまちになる
対象 (誰(何)を対象として行うのか)	小学生までの子を持つ親
意図 (対象をどのようにしたいのか)	子育てにやさしいと感じる人が増える。
目標指標	待機児童数 0人(平成29年度末) まちづくり評価アンケート調査「子育てをつらいと感じている」と答えた子どものいる親の割合 16.4%(平成29年度末) まちづくり評価アンケート調査「盛岡市の子育て支援策・支援活動が充実していると感じる」と答えた市民の割合 30.2%(平成29年度末)

戦略プロジェクトの取組期間は概ね3年を目途に進めていきます。

戦略プロジェクトを構成する様々な分野の事業を実施し、相乗的なつながりを生むことで「期待する効果」の実現を目指して行きます。

戦略プロジェクトの期待する効果の達成度を表す指標を「目標指標」としています。

## Step 2 目標指標の推移

(↑: 数値を上げていくことを目標とする指標, ↓: 数値を下げていくことを目標とする指標)

指標項目	単位	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度実績(評価時点)	29年度目標
A 待機児童数*	人	54 (H26.4.1)	9 (H27.4.1)	0 (H28.4.1)	0 (H29.4.1)	- (H30.4.1)	0
B まちづくり評価アンケート調査「子育てをつらいと感じている」と答えた子どものいる親の割合	%	19.2	19.3	22.0	24.0	-	16.4
C まちづくり評価アンケート調査「盛岡市の子育て支援策・支援活動が充実していると感じる」と答えた市民の割合	%	17.0	15.5	13.3	15.2	-	30.2

戦略プロジェクトの達成度等を検証しています。

目標値設定の基準年である25年度実績を記載しています。

「↑」は数値を上げていくことを、「↓」は数値を下げていくことを、「→」は、現状を維持していくことを目標とするものです。

\*毎年4月1日現在の数値を用いている。

## Step 3 戦略プロジェクトの進捗状況

待機児童の解消に向けて、私立幼稚園の認定こども園への移行支援、私立保育所の新設、入所円滑化による保育所定員の弾力化などに取り組んでいる。

市民・市民団体等による子育て支援活動の促進や、子育ての不安感・孤独感の解消を図る拠点として、室内遊び場、託児室、リラックスルーム等を備えた公共エリアと、託児機能付きオフィスやカフェを備えた民間事業エリアを公民連携により運営する「子育て応援プラザma\*mall」を設置し、公共エリアを先行して4月に開所すると共に、民間事業エリアも開所準備を進めており、社会全体で子ども・子育てに参画するまちづくりに取り組んでいる。

また、企業・団体・個人から子ども未来基金に寄附を募るとともに、子ども未来基金を活用し、市民、団体、企業などが主体的に行う子ども・子育て支援活動に対し、助成をするなど、市の未来を担う子どもが健やかに成長することができる社会の実現を目指す取組を進めている。

戦略プロジェクトの期待する効果や意図実現に向けて、目標指標の実績が設定している目標値に対してどのような水準なのか(現時点での実績値としては順調に推移しているのか)等、戦略プロジェクト全体の進捗状況について記載しています。

## Step 4 市民ニーズの把握

まちづくり評価アンケートにおいて、半数以上の子を持つ親は子育てについて「楽しい」、「どちらかといえば楽しい」と感じる人が多いと回答している一方で、「つらいと感じている」と答えた割合は24ポイントいることから、より一層の施策の推進が求められている。

戦略プロジェクトに関連する市民のニーズについて記載しています。

## Step 5 前年度に分析した課題・改革改善案に対するアクション

### 1 平成28年度に分析した問題点・課題に対する改革改善案

前年度の戦略プロジェクト評価で分析した改革改善案を記載しています。

#### (1) 待機児童の解消

保育所の整備等ハード面の取組と並行して保育士の確保に向けて、保育士が働き続けるための処遇改善等の環境整備にも取り組む必要がある。特に若い保育士が市内の保育施設に就労し、働き続けることができる支援に取り組んでいく。

#### (2) 子育て世帯の孤立等による育児不安の解消

少子化、核家族化が進んでいることにより、子育て世帯が孤立化しないように、地域や行政など多様な主体が連携・協働して、子育てに対する不安や負担を和らげる環境づくりに取り組んでいく。

#### (3) 医療費助成の拡充による子育て世代の経済的負担の軽減

医療費助成の対象を拡充することにより、子育て世代の経済的な負担の軽減に取り組む。平成28年度は、4月から小学生の医療費助成をこれまでの入院のみから通院まで拡充した。また、8月からは、就学前の児童に対して医療費助成における現物支給方式を導入している。

### 2 1の改革改善案の実施状況

1の改革改善案の実施状況について記載しています。

(A：着手済、B：平成29年度に着手（予定含む）、C：未着手または見送り)

改革改善案	具体的な取組（予定）内容	状況
保育士確保対策事業	市内の保育施設に勤務する採用後3年以内の保育士の奨学金返済の一部を補助する。	B
子ども未来基金事業 (子ども未来基金造成事業)	市の積立金及び市民等からの寄附金を財源として、市民・地域団体・企業等が行う子ども・子育ての取組を支援する。	A
子育て応援プラザ運営事業 (少子化対策(子育て支援)事業)	「子ども」をキーワードに市民、地域団体、市民活動団体及び企業等が連携、交流できる場として、子育て応援プラザを公民の連携により運営する。	B
医療費助成事業の拡充	小学生の医療費助成を通院まで拡充。また、就学前の児童に対して医療費助成における現物支給方式を導入した。	A

### 3 2で挙げた取組状況がCの場合、その原因

改革改善案の実施状況が未着手または見送りとした場合に、その原因を記載しています。

## Step 6 成果・問題点の把握

### 1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

戦略プロジェクトを展開した結果、顕在化した成果について記載しています。

#### (1) 戦略プロジェクトの中で特に成果をあげた点

##### ア 待機児童の解消

- 待機児童解消強化事業において、定員の弾力化に取り組んだことにより、入所児童数の定員が8園で40人分拡大し、4月1日時点における待機児童数0人に貢献している。
- 認可保育所や小規模保育施設の新規開設等の整備に積極的に関わり、保育所定員を274人増やすことに大きく貢献している。

##### イ 子育て世帯の孤立等による育児不安の解消

- 子育て応援プラザを設置し、室内遊び場、託児室、リラックスルーム等を備えた公共エリアを4月に開所し、7月末までに2,000人を超える多くの市民・市民団体等に利用されたことにより、子育ての不安感・孤独感の解消を図った。
- 子ども未来基金を活用し、市民、団体、企業などが主体的に行う子ども・子育て支援活動に対し、平成28年度は6件の助成を行い、平成29年度は10件の助成を行う予定としており、社会全体で子ども・子育てを支えるまちづくりの取組を推進した。

#### (2) 成果をあげた要因

1(1)で記載した顕在化した成果の要因について記載しています。

##### ア 待機児童の解消

- 待機児童が多い3歳未満児を対象とする小規模保育などの地域型保育事業を導入しようとする事業者の開設相談に応じ、保育事業に取り組む施設数を増加させることができた。
- 定員の弾力化について多くの保育園の協力が得られた。

##### イ 子育て世帯の孤立等による育児不安の解消

- ・ 子育て応援プラザの設置に当たって、商業施設や映画館などの施設が多数ある利用しやすい立地条件の場所に設置したことや、市民アンケートやワークショップを実施し、市民ニーズを反映させた機能を備えることができた。
- ・ 子ども未来基金について、平成29年度子ども・子育て支援事業へ41件の応募が寄せられたことから、市民が主体となって子ども・子育てを支援する取組の推進が図られてきた。

**(3) さらなる成果向上に向けて取り組むべき課題（課題がある場合に記載）**

**ア 待機児童の解消**

- ・ 国の定義に基づく待機児童数は0人となったが、女性の社会進出や育児休業後職場復帰するため保育所の入所希望者が増加し、年度が進むに従い待機児童は発生し、年度末に向けて増加する傾向にあることから、さらに定員の拡大を進める必要がある。
- ・ 定員拡大を進めることで保育士も必要になることから、雇用を増やすために保育士が働きやすい環境を整備する必要がある。

**イ 子育て世帯の孤立等による育児不安の解消**

- ・ 子育て応援プラザについて、より多くの市民・団体等に利用してもらうよう、運營業務受託団体等と協力しながら積極的に周知を図るとともに、民間事業エリアの早期事業開始が求められる。
- ・ 子ども未来基金について、基金の運用が長く続くよう、市民・団体・企業等に寄附の宣伝・周知を図る必要がある。

1(1) 及び(2) において記載した顕在化した成果とその要因を踏まえ、今後さらに成果を上げるために取り組むべき課題を記載しています。

**2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定**

**(1) 戦略プロジェクトにおける現状の問題点（特に改善を急ぐべき点）**

**ア 待機児童の解消**

- ・ 保育需要の増加が急速なペースで進行していることから、待機児童の解消の取組が追いついていない。
- ・ 保育所定員の拡大とともに保育を担う保育士の確保が課題となっている。

**イ 子育て世帯の孤立等による育児不安の解消**

- ・ まちづくり評価アンケート調査「子育てをつらいと感じている」と答えた子どものいる親の割合が平成28年度で24.0%となっており、「盛岡市子ども・子育て支援事業計画」で掲げた平成31年度目標値の14.5%の達成に向けて、子育てに対する不安や負担を和らげる環境づくりが求められている。

戦略プロジェクトを展開した結果、特に改善を急ぐべき点・留意すべき点について記載しています。

**(2) 現状の問題点が生じている原因**

**ア 待機児童の解消**

- ・ 保育所の新設等が新たな保育需要を発生させている。
- ・ 女性の社会進出等雇用の拡大により保育を必要とする者が増加している。
- ・ 雇用主と就職希望者との間で雇用条件のミスマッチが生じていることから、保育士の確保が困難となっており、保育所定員の拡大が進まない状況となっている。

**イ 子育て世帯の孤立等による育児不安の解消**

- ・ 少子化、核家族化が進んでいることにより、閉塞的な環境の中で子育てしている世帯が増加している。
- ・ 要保護児童・要支援児童の増加、子どもの貧困など、複数の困難を抱えている世帯が増加している。

2(1) で記載した問題点が生じている原因を記載しています。

**(3) 分析した原因を踏まえて取り組むべき課題**

**ア 待機児童の解消**

- ・ 認可保育所の新設や幼稚園の認定こども園化及び地域型保育事業の推進により定員の拡大を進める必要がある。
- ・ 保育士の確保に向けて、保育士が働き続けるために障害となっている処遇改善や、出産・育児との両立支援など潜在保育士が現場復帰しやすい環境づくりに取り組む必要がある。

**イ 子育て世帯の孤立等による育児不安の解消**

子育て中の親が気軽に相談できる拠点づくりや、子どもの居場所作りの取組など、地域、民間団体、行政など多様な主体が連携した、社会で子育てを応援する取組の推進が必要と考えられる。

2(1) 及び(2) で記載した問題点とその原因を踏まえ、改善するために取り組むべき課題を記載しています。

**Step 7 Step 5, 6を踏まえた改革改善案**

**1 待機児童の解消**

- ・ 今までは社会福祉法人等からの相談に応じながら、私立保育所等の新設や増改築等の整備を進めてきたが、幼稚園へ認定こども園への移行の積極的な働きかけ、認可外保育所が地域型保育事業への転換できるよう助言・指導を行うなど積極的に定員拡大に取り組んでいく。
- ・ 保育士の資格を取得した若い世代が、市内の保育施設に就労しやすいような補助制度の検討など、保育士の確保のための施策に取り組んでいく。

上記の分析結果を踏まえた具体的な改革改善案を記載しています。

## 【参考資料2：戦略プロジェクトロジックモデルシートの考え方】

ロジックモデルシートは、各事業がどういった論理(ロジック)で戦略プロジェクトの期待する効果に至るのか、その過程を、数段階(直接の結果、一次成果、二次成果、三次成果...)に分割して表現しています。つまり、直接の結果から右へ順に、時間の経過にともなう成果の流れを表しています。

※ロジックモデルとは、達成したいと考える戦略プロジェクトの期待する効果に対して、各事業がどのような因果関係にあるのかを体系的に図示した流れ図のことであり、事象の構造を抽象して論理的に形式化した仮説です。ロジックモデルシートを作成するに当たっては、経験と事業実績に基づいて、[こうなることによってこうなる、その結果こうなる...]という論理の流れを考えます。このような論理的な根拠を持ったより良い仮説を立てることが、より有効性の高い事業をつくりだすことにつながると考えています。また、毎年このロジックモデルを検証し、見直すことによって、「戦略プロジェクトの期待する効果」の達成を目指します。

### ロジックモデルシート(H29事中評価)

戦略プロジェクト名

主管部名

事業名 事業概要等	活動	結果	目指す成果	戦略プロジェクト
【事業概要】  【H27事業費】 【H28事業費】 【H29事業費】 【事業担当課】 【実施内容】	事業の具体的な内容を記載します。	事業の対象者(受益者)、対象物が直接的に得られるものや行動を記載します。	対象者(受益者)、対象物の意識、行動や状態の変化を数段階に分割して記載します。 一番右側にきた成果が、戦略プロジェクトの目標、期待する効果を直接的に押し上げる成果になります。	
【進捗状況】	※ロジックモデルの例 <pre>           graph LR             A[盛岡ブランドフォーラムを開催する] --&gt; B[盛岡ブランドフォーラムに市民等が参加する]             B --&gt; C[盛岡ブランドの認知度が向上する]             C --&gt; D[盛岡を好きだと思える人が増加する]             D --&gt; E[盛岡の価値や魅力を発信する人が増える]           </pre>			

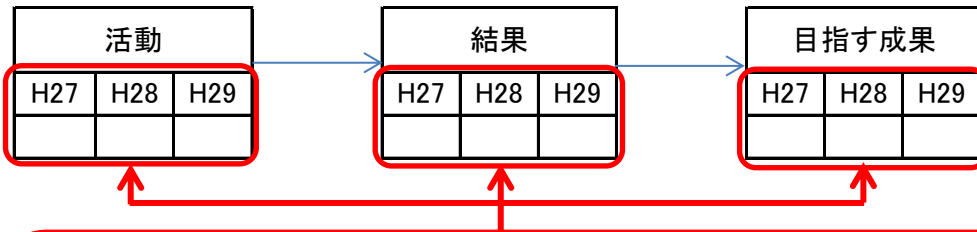
## 【参考資料3：戦略プロジェクトロジックモデルシートの見方】

### 【事業名・事業概要等】

戦略プロジェクトに構成されている全ての事業が記載されています。

### 【活動・結果・目指す成果】

- 1 活動…事業担当課のしごと(イベント, 行動, 技術・サービスなど)
- 2 結果…「活動」の対象が直接的に得るものや行動
- 3 目指す成果…「活動」で得られた利益や変化  
(左から右へ1次成果, 2次成果, 3次成果…と段階を経て記載しています。)



- ・各年度の実績値を記載しています。(本評価ではH27及びH28の実績値を記載。)
- ・H29の実績値については, 評価時点での実績値を記載しています。
- ・実績値を把握できない[結果], [目指す成果]については, 実績値の記載欄はありません。
- ・その他詳細については, 下記を参照してください。

#### 【【活動】の実績値について】

- (1) H27,H28 実績値について
  - ⇒ H27 年度またはH28年度に事業を実施しなかった場合は, 斜線を引いています。
- (2) H29 実績値について
  - ⇒ 評価時点では, まだ事業を実施していない場合は, 「未」と記載しています。
  - ⇒ H29 年度に事業を実施する予定がない場合は, 斜線を引いています。

#### 【【結果】の実績値について】

- (1) H27,H28 実績値について
  - ⇒ H27 年度またはH28年度に, [活動]が無かったため, [結果]も生じなかった場合は, 斜線を引いています。
  - ⇒ [活動]は実施されたが, [結果]が生じなかった場合は, 「0」を記載しています。
- (2) H29実績値について
  - ⇒ 評価時点では, [活動]がまだ実施されていないため, [結果]も生じていない場合は, 「未」と記載しています。
  - ⇒ [活動]は実施されているが, [結果]が生じていない場合は, 「0」を記載しています。
  - ⇒ [活動]は実施されているが, [結果]の数値が把握できていない場合は, 「未」と記載しています。
  - ⇒ H29年度は, [活動]が実施されないため, [結果]が生じない場合は, 斜線を引いています。

#### 【【目指す成果】の実績値について】

- (1) H29 実績値について
  - ⇒ 評価時点では, まだ[目指す成果]の数値が把握できない場合は, 「未」と記載しています。

### 【目指す成果の状況の表示について】

評価時点での[目指す成果]がどこまで上がっているかについて下記のとおり表示しています。  
また, 戦略プロジェクトの期待する効果や意図実現への貢献度が大きい成果(重点的に向上を図るべき成果)と考えるものについては「◎」をつけています。

大きな成果が上がっている(出ている)		
H27	H28	H29

一定の成果が上がっている(出ている)		
H27	H28	H29

成果が上がっていない(出ている)とはいえない		
H27	H28	H29

### 【矢印の太さについて】

戦略プロジェクトの期待する効果や意図実現に特に貢献すると考える[成果]から[活動]までの流れ(特に重点化していきたい[成果]から[活動]までの流れ)について, 矢印を太くしています。